

みらいへつなげる力

～各ユニットレポート～

ハルナグループの理念を形にしながら、人々が幸せに暮らしていける社会をめざし
地球と人の幸福に貢献するためのサステナビリティを追求しています。
グループすべての社員が誠実で積極的にサステナビリティに貢献する
すべての取り組みをご紹介いたします。

Haruna Group for Sustainability



営業Unit

ステークホルダーのみなさまの声を反映し、
質の高い商品で満足していただくことを基本にしています。
「お客さま満足」という理念を胸に、お客様とともに未来づくりに取り組んでいます。

もっとお客様のそばに

「顧客満足度ナンバーワンになるために」、私たちハルナグループの営業活動は常にお客様と真摯に向き合い、その様々なニーズを現実の商品とする為に、市場調査に基づく商品開発、最適な資材原料調達、消費エリアに合わせた工場選定、小回りの利く流通対応など商品の発送からお届けまで、各Unitと連携しながら、終始一貫してお客様の傍でサポートさせて頂きます。「飲料プロデューサー」といえば聞こえは良いですが、あくまで主役は「お客様」、その気持ちを決して忘れず、日々の業務にしっかりと取り組んで参ります。



❖ 社員の声

筋原 大地 (ハルナビパレッジ株式会社 営業Unit 第2営業Section)

震災から一年が経過し、市場が大きく変化している中、私達もその変化に適応し顧客満足という目標に向かい日々営業活動を行っております。またエンドユーザー様の思考も大きく変化しております。そのエンドユーザー様が何を求めているのか?どういった商品を求めているのか?常にお客様の立場に立ち想像し考え、商品開発Unitと一緒に企画・提案を行い、市場・お客様が求めている商品の開発を、今後もプロデュースし取り組んでいきます。

商品開発Unit

新しい技術・製品を創造することは
人の暮らしを豊かにし、それは企業の発展につながり、未来を豊かにする。

お客様の立場に立ち、お客様のニーズに基づいた商品開発を進めています。

美味しいと喜ばれる商品を企画する新商品企画セクションと、お客様のご要望をお聴きし一緒にプランニングする共同開発セクションとに分かれ、営業、研究開発、商品企画、製品開発、生産、品質、物流、環境全ての部門が緊密に連携した商品化を進めております。

(企画開発商品例)

- 茶系飲料(緑茶、烏龍茶、混合茶、紅茶<果汁入りも可>)
- 果汁飲料(0~100%果汁飲料、ネクター系飲料)
- 野菜飲料(0~100%野菜飲料、トマトジュース、果実野菜ミックスジュース)
- 乳性飲料(酸性乳性飲料<脱脂粉乳、練乳、増粘剤等の原料>)
- ニアウォーター(天然水で商品化も可能)
- 機能水・スポーツドリンク(各種ビタミン、ミネラル、アミノ酸等付加飲料)
- 天然水(ナチュラルミネラルウォーター)
- その他(豆乳等)



❖ 社員の声

梅山 慎太郎 (ハルナビパレッジ株式会社 商品開発Unit 共同商品開発Section チームリーダー)

市場の流れが目まぐるしく変化する飲料業界において、商品開発という部署は、会社の未来の可能性を生み出す重要な部署であり、継続的な成長に欠かせない存在となっております。常に消費者やお客様の要望の1歩先を見据えて、新たな商品を生み出し続けることで、会社と社会の双方の持続的発展に貢献したいと考えております。

製造Unit

Future

卓越した技術の創造へのイノベーション 継続可能な未来へ

ハルナグループの生産拠点であるハルナビパレッジファクトリー(株)の生産活動は今年度もハルナ工場の「お茶系製品」タニガワ工場の「水製品」を中心に果汁系飲料、スポーツドリンク等、様々な清涼飲料の製造を手掛け、手にされたお客様の喜びと感動を創り出す生産現場で有りたいと思います。

継続可能な未来へ

生産現場では如何に無駄のない生産活動を維持出来るか?一つ一つの生産プロセスを丁寧に見直し循環可能なメソッドへの進化を創生して行きたいと考えます。

また、お客様の信頼を永く頂き確固たる満足をいただくために、これまでの品質管理をさらにレベルアップを図り「クリティカル・シンキング」をキーワードに「様々な現場の事象をしっかり考える」事を実践しより一層の「ハイ・クオリティー・オペレーション」を実現して参ります。



❖社員の声

金田 弘道 (ハルナビパレッジファクトリー株式会社 製造Unit 第1Plant チームリーダー)

私達製造Unitの各製造現場では、『お客様から喜んで頂き信頼される製品づくり』を目指し、品質管理体制・製造技術力の強化・生産効率の改善に取り組んでいます。これからも数ある企業の中から当社を選び続けて頂けるよう、ひとりひとりが1日1日を大切に成長を続け、安心・安全で満足して頂ける製品を提供出来るよう、努力して参ります。

生産設計技術Unit

Future

蓄積された技術と技能の継承に努めるとともに、 技術環境の変化に的確に対応し、最新の技術を設計、生産等に活用します。

生産設計技術Unitでは、PETボトルやキャップなどの包材の当社生産設備への適合性のテスト検証の実施や、新たな製造設備の検討と導入後の検証などの業務を行っております。

現在は、「現場の見える化システム」として、生産の現場にWEBカメラを導入しコントロールセンターでモニタリング管理を行うことで、生産体制の新たな合理化とローコストオペレーションの構築に向けた取り組みを始めております。

生産現場の持続的な発展に向け生産システムの改革へ挑戦しています。また、新たな取り組みには知識や経験が不可欠となりますので、全員が強い探究心と熱意をもって日々活動し、お客様満足度の向上を目指し取り組んでおります。



❖社員の声

及川 照夫 (ハルナビパレッジファクトリー株式会社 生産設計技術Section 製品安全室 チームリーダー)

かつて日本の技術レベルは世界トップと言われていました。しかし国内景気の停滞により新しい事をしなくなった結果、技術力は停滞し今や海外企業に遅れをとっているのではないかとさえ感じます。我々は失敗を恐れず、強い探究心と熱意を持って新しいことにチャレンジし、高い技術レベルを目指します。

品質管理Unit

Future

安全・安心な製品を継続的にご提供するために

私達はお客様に安全で安心な製品を継続的にお届けするために「HACCPシステム」を品質管理の基軸として品質管理、改善活動に日々取り組んでいます。安全で安心な製品を製造するための取組みに終わりはありません。製品品質をより向上させるため、お客様のご意見・ご要望を反映させると共に改善活動に不可欠なPDCAサイクルを回転させ、より安全で安心な製品を継続的にお客様にご提供いたします。



より安全で、より安心な製品のご提供



❖社員の声

千田 亮 (ハルナビパレッジファクトリー株式会社 品質・社会環境Unit 品質管理Section リーダー)

私はタニガワ工場があります、利根郡で生まれ育ちましたが、入社するまでは「谷川の水」を口にする機会があまりませんでした。しかし、品質管理業務に携わるようになり、日々の業務の中で、毎日天然水の検査や研究をすることで、水に対し興味がわき、いろいろな水を飲み比べるようになり、改めて「谷川の水」の美味しさに気付くことが出来ました。この世界に誇れる地元の水を、より多くの人に知ってもらうために、自分にできることは、日頃から専門知識や検査精度の向上に取り組み、安全な製品をご提供し続けることだと考えております。みなみみ町から安全・安心で美味しい「谷川の水」を世界のお客様にご提供できるよう日々の品質管理に取り組んでまいります。

SCM Unit

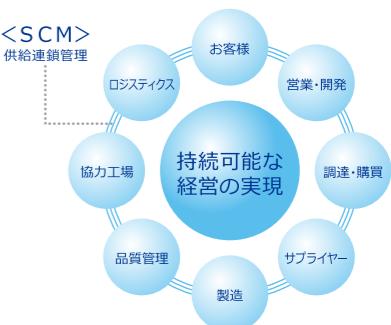
Future

「持続可能性」の大きな部分を担う重要な役割りを遂行してまいります。

◎2012年、新システムの立上

お客様、消費者様、サプライヤー様、協力工場様、ハルナグループに係る情報を相互に共有・管理・分析することで、ビジネスプロセスの全体最適を目指します。

新システム<PRONES>は、SCM Unitの供給連鎖管理の基本システムとして社内に於ける、供給・生産・ロジスティクス・財務のプラットホームとして、更なる「見える化」、標準化を推進する基幹システムとなり、常に進化させて行きます。リードタイム短縮、欠品防止、在庫計画、最適生産計画への直接的な改善効果を実現し、顧客満足No.1を目指してまいります。



❖社員の声

宮腰 亮多 (ハルナロジスティクス株式会社 情報システムSection 総括補佐リーダー)

新システム「PRONES」構築部分最適から全体最適へ。これが我々の目指すべき方向。部署間の壁をとつ払い、ステークホルダー全員が手をつなぎ、輪を作る。この理想形に近づける為のツールとして、「IT」が存在しているのだと思います。私の役割として、このツールを切って貼つて形を作り、皆が手を取り合いやすい環境づくりを促進して参ります。

海外事業のグローバル展開に向け、よりよい海外商品の国内販売はもちろん
清涼飲料の開発や生産ノウハウ、レシピ等の技術を活用し海外に向け積極的に発信します。

国際事業では新規の事業投資や提携も将来への視野に入れながら、事業基盤の強化と収益性向上の取り組みを推進しています。人気定番商品のスウェーデンの「マイスマージー」オーストラリアからの「マウンテンフレッシュ」やイギリスの「ファイアフライ」等、提携関係をさらに強化し、さらなる販成長を強化するほか、シンガポールや中国、韓国等アジアを中心に新規ビジネスの取り組みで飲料事業の拡大を目指します。

【ハリナグループシナジー戦略の最大化（HARUNA商品）】



■グローバル事業の推進

各国の市場とニーズをふまえ、健康志向が高いヨーロッパや大自然のオーストラリアからは、100%ストレートのフルーツジュース等の高品質の商品を輸入しています。

■日本で培った技術を世界へ 日本より【HARUNA国際事業】

成長著しいアジアへの将来の本格的な進出に向けて、2012年からビジネススキームの基盤作りとテストマーケティングに着手し、オリジナリティの高い当社の飲料ビジネスを展開し、事業拡大に向け進めていきたいと考えています。

ハリナグループは世界中のひとが、健やかに安全で美しく生きていけることを望んでいます。
当社の研究と技術で、みなさんに美味しい飲料をご提供できるように努力し続けます。

❖社員の声 小池 志保（HARUNA株式会社 国際Unit 営業企画Section リーダー）

海外旅行が一般的になった今、旅先で新たな飲み物や食べ物を知るというのは、旅の大きな楽しみでもあり、またその国の食べ物を楽しむ事が旅の目的となる場合もあります。このようにいろいろな国との交流が活発になった今、食生活は大きく変化し多様化してきているのはすでに皆さんご存知の通りです。

しかし世界中には、まだまだ私たちが知らない食品がたくさんあります。そのような食品を探し、新たな食生活の提案をするのも私たちHARUNAの使命のひとつだと考えています。現在HARUNA国際ユニットではスウェーデン、イギリス、オーストラリア、モロッコから商品を輸入しています。HARUNAの輸入商品は独自性が高く、たとえばモロッコから輸入しているオリーブ、“OLOVES”は“リキッドフリーのオリーブ”という新しいコンセプトで、今までのオリーブの概念を変えた商品として注目されています。またイギリスから輸入している“ファイアフライ”はエナジードリンクでありながら、その開発は英国伝統のハーブ研究に基に、果汁とハーブをミックスするという新しいアプローチから製品化された自然派志向の特徴ある商品です。今後もHARUNAは、飲料製造会社のグループとして培われた厳しい品質の目で商品を評価し、食の世界が広がるユニークな商品を探し、皆様にお届けしたいと思っています。

ハルナスマートコミュニティーの構築に向けて

脱PCによるシームレス化とユビキタス環境の実現

東日本大震災によって、もともと抱えていたリスクが前倒しになり、中期的な視点から日本経済は3つの危機に直面すると言われています。

それは、①経済の空洞化 ②財政危機 そして③電力危機の3点です。

国だけでなく、企業としても対処を誤れば確実に衰退してしまいます。この改革は先送り出来ないまつたなしの改革なのです。改革には、「スピード」「モバイル」「イノベーション」と「エネルギー」といった環境変化への対応が必要であると考えています。このような変革の時代を生き残るために、競争を恐れず、将来キャッシュフローを最大化し、「地球」と「社会」に貢献させていただくために、次の施策に取り組んでいきたいと考えております。

1. 基本骨子

自働化とクラウドコンピューティングにより、シームレスなユビキタス環境を実現し、グループの最大最適と環境に配慮したハルナスマートコミュニティーの構築。

2. 具体的施策

- ・プラントシステムによる集中管理の実現
- ・「自働化」による「少人化」と「見える化」の実現
※単に「動く」だけでなく、人の創造と工夫が入る自働化とする
- ・物理ネットワークと仮想ネットワークの連携
- ・全ての企業・部署データの連携
- ・バーチャルオフィスの実現
- ・スマートグリッドによるエネルギーの有効活用
- ・ITGC（IT全般統制）の構築運用
- ・ハリナリスクインテリジェンスによる非常時対策
- ・目で訴えるプレゼンツールの構築
- ・経営判断ツールの構築
- ・社員一人当たり売上高1億円、営業利益3百万円の実現



Haruna Business School

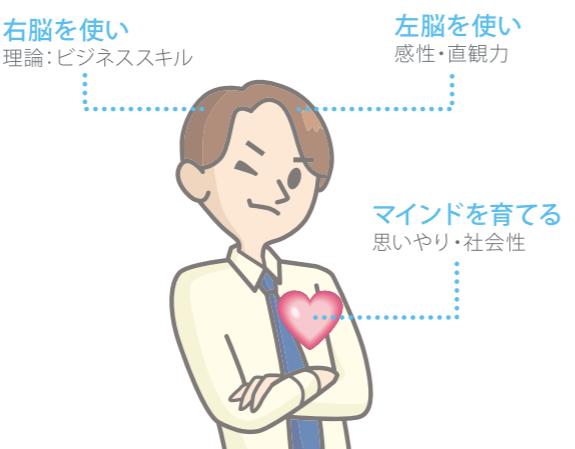
ハルナグループは、社員一人一人が主体性・創造性・チャレンジ精神をもち、企業価値を創造する人材の集団を目指す「企業価値を創造する人材育成」を推進しています。特に製造に従事する人材に焦点を絞った教育研修プログラムとして、「ハルナビジネススクール」を2005年に設立いたしました。

「企業価値を創造する人材育成」新コース開講

めまぐるしい変化が続く社会に対し、絶えず新たな価値を創り出せる社員を育成してきたビジネススクールも8年目を迎えました。本年度は、さらに次世代を牽引する自ら変化を巻き起こしていく力、これから組織に欠かせないリーダーを養成する「経営者育成・管理者育成」のプログラムを新たに開講いたしました。

◎2012年度 経営者育成・管理者育成のプログラム

4月	キックオフ・Sustainability経営①
5月	モノづくりの真髄①プロジェクト研究実施
6月	Customer Relationship Management①
7月	企業における基礎研究について
8月	Unit経営戦略論
8月	外部経営者との意見交換、経営討議
9月	Sustainability経営②
10月	モノづくりの真髄②
11月	Customer Relationship Management②
12月	企業法務と財務会計①
1月	飲料学
2月	企業法務と財務会計②
3月	ラウンドグループディスカッション



◎理事構成

理事長	青木清志 (ハルナグループ代表)
副理事長	菅谷重信 (ハルナビバレッジ株)元取締役
校長	須齋嵩 (群馬大学客員教授 宇都宮大学客員教授 ハルナビバレッジ株)取締役)
専務理事	中澤幹彦 (ハルナビバレッジファクトリー株)代表取締役)
理事	小出信介 (小出公認会計士税理士事務所代表)
理事	青木麻生 (ハルナビバレッジ株)代表取締役)
理事	栗原健一 (ハーラインテリジェンスネットワーク株)代表取締役)

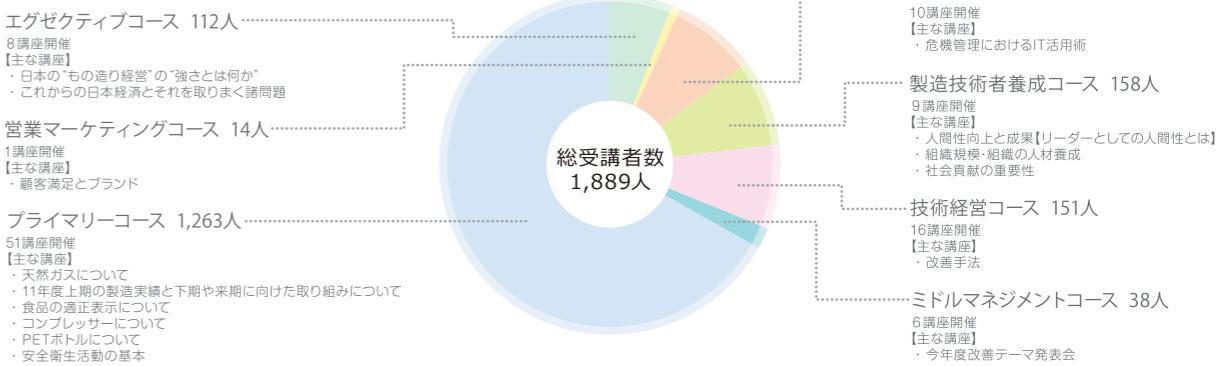


歴代講師と受講者数

客員教授	講座内容	就任年	客員教授	講座内容	就任年
群馬大学 名誉教授 国士館大学 教授 田村 泰彦 先生	経営論	2005	カゴメ(㈱)ユニットディレクター 杉山喜久雄 先生	工場経営/技術	2007
三菱商事(㈱)産業機械本部元本部長 佐野昭八郎 先生	工場経営/技術	2005	ヨークマート(㈱)元代表取締役社長 杉 伸一郎 先生	マーケティング技術	2007
東京理科大学大学院 教授 松島 茂 先生	経営論/技術	2005	元群馬県議会議員 後藤 新 先生	人づくり	2007
高崎健康福祉大学 教授 江口 文陽 先生	健康学	2005	大妻女子大学教授 寺石 雅英 先生	財務経理/経営論	2008
サッポロ飲料(㈱)元代表取締役社長 群馬大学客員教授 岡 俊明 先生	マーケティング	2005	㈱NHKコンピュータサービス元代表取締役社長 三浦 真吾 先生	情報/IT	2008
群馬大学客員教授 宇都宮大学 客員教授 須齋 嵩 先生	経営論/技術	2005	(㈱)ネッツ/パートナーズ本部長 丹治 保積 先生	情報/IT	2008
中京大学 教授 岸田 考弥 先生	工場経営/技術	2005	小出公認会計士税理士事務所 代表 小出 信介 先生	財務経理	2008
毎日新聞 東京本社 編集委員 岸井 雄作 先生	工場経営/IT情報	2005	野村証券(㈱)元代表取締役専務 津田 晃 先生	政治経済情勢/営業	2008
群馬県産業支援機構専務理事 長谷川泰彦 先生	政治経済情勢	2005	群馬大学 教授 杉山 学 先生	経営論	2010
人材形成研究所所長 水上 久忠 先生	人づくり	2005	群馬工業高等専門学校 教授 下田祐紀夫 先生	工場経営/技術	2010
カゴメ(㈱)研究開発部部長 横田 哲也 先生	健康学	2005	ジャーナリスト 野口 恒 先生	工場経営/技術	2010
群馬銀行元支店長 小林 欣司 先生	財務経理	2005	群馬大学元学長 上武大学学長 鈴木 守 先生	医学	2011
丸紅マシナリー元代表取締役社長 森田 茂 先生	工場経営/技術	2006	横浜国立大学 講師 青山学院大学客員教員 梅野 匡俊 先生	経営論/マーケティング	2012
経済ジャーナリスト 財部 誠一 先生	経営論/政治経済情勢	2006	ハルナグループ代表 青木 清志 先生	経営論/政治経済情勢	2005

(開講順、学校及び役職は、講義当時のものです)

◎2011年度受講実績



◎2011年度ビジネススクール受講者の感想

「技術者リーダーとしての使命感と達成感」を受講して

西河 克 (ハルナビバレッジファクトリー株式会社 製造Unit チームリーダー)

一番印象に残ったのは、企業の優れたリーダーは異常性があるぐらい「自分の描いた信念に熱意を持っていた」ということです。信念に熱意を持つということは、決してあきらめない、必ずやり遂げるという使命感であり、常に熱意を持ち続ける精神力が必要だと感じました。知識と才能は熱意があつこそ生きる。熱意は人を引き付け大きな力を生みだし仕事を成功させる必要不可欠な要素と感じました。自己の仕事で自分の熱意が課員に伝わっているか、伝えているか、強く願っているか、熱意が正しい方向なのか、幅広い知識・見識と大局感を持っているのか?を自問自答したときに、まだまだ足りない部分が多いと感じるとともに、自己の課題も改めて認識することが出来ました。自己の成長はもとより、今後の生産活動にビジネススクールで学んだことを活かしていかたいと思います。

「熱意」を持ち、仕事、人に接する大切さを学びました

吉池 拓也 (ハルナビバレッジファクトリー株式会社 製造Unit チームリーダー)

2011年3月11日に東日本大震災を経験し個人的にも色々な不便さを感じる中で、改めて「水」の大切さを実感し、水を製造する業務に自分が携われる感謝及び責任感を強く再認識する事ができました。スクールでは、社会貢献の重要性を学びましたが、現在までの社会貢献活動の他にも夜勤シフト最終日には15分程度でも良いので、会社周りの清掃活動及び近隣住民への挨拶活動を行い、少しでも地域社会への貢献になるのではないかと感じ実行しています。また熱意を持ち、仕事や人に接する大切さを学んだので、心は熱く燃やし、表面上では青く燃えているように業務に携わりたいと思いました。最後に当社社員に「貴方の会社で作っているものは何ですか?」と聞いたら普通の社員ならば「水です」「飲料です」と答える社員が8~9割でしょう。いくつかこの質問の答えが「お客様の満足です」「お客様へのおもてなしです」等という答えがきたら、最高の会社に成長していると思いました。